

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月12日
【四半期会計期間】	第47期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	アドアーズ株式会社
【英訳名】	A D O R E S , I n c .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 齊藤 慶
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門一丁目7番12号
【電話番号】	03(5843)8800
【事務連絡者氏名】	管理本部部長 上原 聖司
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門一丁目7番12号
【電話番号】	03(5843)8805
【事務連絡者氏名】	管理本部部長 上原 聖司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第2四半期連結 累計期間	第46期
会計期間	自平成25年 4月1日 至平成25年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高(千円)	11,354,307	19,991,886
経常利益(千円)	727,824	372,043
四半期純利益又は当期純利益 (千円)	723,360	165,595
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	724,530	109,196
純資産額(千円)	10,746,945	10,162,030
総資産額(千円)	20,498,611	20,683,106
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり当期純利益金額(円)	5.20	1.36
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-
自己資本比率(%)	52.4	49.1
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,118,056	2,072,114
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	703,477	954,214
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	11,464	2,661,063
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	2,200,178	1,797,083

回次	第47期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年 7月1日 至平成25年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.20

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 当社は、前連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前年同四半期連結会計期間の主要な経営指標等については記載しておりません。
3. 売上高には消費税等は含まれておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

業務委託の解消ならびにカプセル自販機等の譲渡

当社は平成25年7月3日開催の臨時取締役会において、株式会社ゲオ（以下、「ゲオ」）と締結した「カプセル自動販売機設置契約」の解消ならびに当該契約に基づき設置したカプセル自販機等の売却について決議し、同日ゲオとその解消と売買に伴う基本合意書を締結しました。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間末日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府主導の経済政策などによる経済成長への期待感もあり、国内企業の収益改善のみならず、高付加価値商材や外食、娯楽などへの消費トレンドにおいても改善が見られつつあります。直近におきましては、不安定な国際情勢、国内においても消費税の増税が決定するなど、先行きへの不透明感は若干残るものの、全体としての景況感は緩やかながらも回復傾向に向かっているものと考えております。

このような状況の中、前連結会計年度末に子会社としたキーノート株式会社（以下、キーノート）および株式会社ブレイク（以下、ブレイク）との間でアドアーズグループを形成し、新たな経営陣のもと、各社のノウハウの融合、親会社であるJトラスト株式会社との連携を活かした成長戦略に着手しております。

主力のアミューズメント事業におきましては、売上の中核ジャンルであるメダルゲームの大幅な単価見直し施策の規模を拡大させるとともに、リアル・ネット・メディアを活用した積極的な販促活動等を行ったこともあり、既存店売上高前年比は第1四半期平均の95.3%から当第2四半期平均98.4%と3.1%改善するなど、上半期全体を通して回復傾向にて推移致しました。また、景品販売においても好調な店舗運営状況に下支えられ、比較的堅調に推移致しました。

不動産事業におきましては、キーノートで展開する戸建住宅販売に関し、完成物件の引渡が下半期にずれ込む等により上半期の業績は伸び悩んだものの、Jトラストグループとのリソースを活かすべく、当連結会計年度より事業展開を図っている不動産アセット部門におきまして、販売用不動産ならびに都心部を中心とした収益物件の取扱いを開始するなど、今後の収益拡大に向けた一歩を着実に踏み出しております。また建築事業におきましては、アドアーズで営んできた商業施設向けの設計・施工事業をキーノートへ集約するなどのグループ内事業再編も実施し、シナジー創出・効率化による収益向上策にも着手致しました。

この結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高11,354百万円、営業利益795百万円、経常利益727百万円、四半期純利益723百万円となりました。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

前連結会計年度にて期中連結を行っているため、前年同期比較は行っておりません。

(セグメント別概況)

アミューズメント事業

当社グループの主力事業であるアミューズメント事業の中核を成すアミューズメント施設運営事業におきましては、国内景気の回復基調を背景に、これまで最重要課題と定めてきた「集客」に資する新規顧客層の獲得に継続して取り組みました。

特に当事業の売上の4割以上を担う中核のメダルゲームジャンルにおいては、ゲームの演出を存分に楽しみたいという遊戯ニーズに応える形で前期末から展開しているメダル貸出単価「1,000円=500枚」施策の規模を拡大したほか、コアファン向けのイベント「メダルファンタジアカップ」、客足が鈍る梅雨時期にあわせた「アメ得キャンペーン」など、実績のある人気イベントの継続開催、さらには業界初となる自社株価連動式イベント「アドノミクス」等の高単価施策、独自性の高いイベントも開催した結果、当該ジャンルの在客数・売上高ともに前年を大きく上回ることができました。

なお、今年の8月で開設1周年を迎えたカラオケアドアーズ秋葉原店における様々な業種・コンテンツとのコラボ企画等による話題作りをはじめ、店舗・ネットを使った情報告知などの販促活動を積極的に展開したことも集客に大きく寄与致しました。

プライズジャンルにおきましてもブレイクとの連携による強化を進めたことにより、集客面では前年水準を確保した結果、ビデオゲームジャンルがスマートフォンやソーシャルゲーム等の影響を受けて大幅な減収で苦戦する中、平成25年8月度の既存店売上高が、実に1年11ヵ月ぶりに対前年超えを達成するなど、アミューズメント施設運営事業で長らく続いてきた下降トレンドが下げ止まりつつあります。

プライズ景品の製造・販売部門におきましては、夏休み直前までは伸び悩んだものの、推し進めてきた生産管理への挺入れによる準備が奏功し、7月以降はこの新管理体制が軌道に乗り、既存のキャラクター商材の取り扱いにおける選別眼のみならず、ブレイクの完全オリジナル景品の開発・販売も全体収益に寄与するに至っております。

以上の結果、アミューズメント事業の業績におきましては、売上高は8,779百万円、セグメント利益920百万円となりました。

不動産事業

キーノートが展開する戸建住宅販売におきましては、消費税増税の決定等により、市場環境は概ね順調に推移致しました。一方、今期中の完成物件の引渡可能時期が下半期に集中していることから、上半期の業績への貢献は低水準にとどまりました。

また、アドアーズとして、新たに立ち上げたアセット事業におきましては、販売用不動産ならびに都心部を中心とした収益物件の仕入れなど、今後の収益の確立に向けた動きを開始しております。

この結果、不動産事業における売上高は2,041百万円、セグメント利益164百万円となりました。

建築事業

商業施設向け建築事業におきましては、同事業の子会社への集約に伴う体制変更・整備を進める中、新規を含むパチンコホールやカラオケ店、宿泊施設等の設計・施工を複数受注したものの、進行中であった大型案件の完工が下半期にずれ込んだこと等により、当事業における売上高は532百万円、セグメント利益7百万円となりました。

また、資産、負債及び純資産の状況は以下のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて184百万円減の20,498百万円となりました。これは主として受取手形及び売掛金等が減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて769百万円減の9,751百万円となりました。これは主として未払金、支払手形及び買掛金等が減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて584百万円増の10,746百万円となりました。これは主として配当金の支払及び四半期純利益の増加による影響であります。

(2) キャッシュ・フローの状況の分析

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,118百万円の資金の獲得となりました。これは主として減価償却費の計上及び売上債権の減少による資金の増加によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、703百万円の資金の使用となりました。これは主として出資金の払込及び有形固定資産の取得等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、11百万円の資金の使用となりました。これは主として長期借入金の返済によるものであります。

これらの活動の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は2,200百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	550,000,000
計	550,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	139,259,092	139,259,092	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数1,000株
計	139,259,092	139,259,092	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成25年7月1日～平成25年9月30日	-	139,259,092	-	4,405,000	-	4,359,307

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
Jトラスト株式会社	東京都港区虎ノ門1 - 7 - 12	59,755	42.91
G F 投資ファンド投資事業有限 責任組合	東京都中央区日本橋馬喰町1 - 7 - 1	41,000	29.44
鈴木 昭作	東京都新宿区	4,092	2.93
株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス	東京都渋谷区代々木3 - 22 - 7	3,420	2.45
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1 - 2 - 10	1,547	1.11
岡田 浩明	東京都世田谷区	1,212	0.87
川端 泰雅	大阪府大阪市	746	0.53
孫 小蕾	愛知県名古屋市	678	0.48
アドアーズ従業員持株会	東京都港区虎ノ門1 - 7 - 12	665	0.47
星 久	東京都豊島区	640	0.46
計	-	113,758	81.68

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 22,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 138,912,000	138,912	-
単元未満株式	普通株式 325,092	-	-
発行済株式総数	139,259,092	-	-
総株主の議決権	-	138,912	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が62,000株が含まれております。
また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数62個および自己株式の失念株式に係る議決権の数7個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
アドアーズ株式会社	東京都港区虎ノ門 1 - 7 - 12	22,000	-	22,000	0.01
計	-	22,000	-	22,000	0.01

(注)上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が7,000株(議決権の数7個)あります。

なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の欄に含まれております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、興亜監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,081,578	2,957,123
受取手形及び売掛金等	1,140,552	508,158
未成工事支出金	209,354	-
仕掛販売用不動産	345,201	643,302
販売用不動産	1,141,550	1,490,150
商品	187,993	164,708
貯蔵品	92,152	36,420
前払費用	517,952	509,891
未収入金	82,486	117,346
前渡金	37,371	121,313
繰延税金資産	93,417	90,499
その他	194,316	110,572
貸倒引当金	1,950	824
流動資産合計	7,121,978	6,748,664
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント施設機器(純額)	2,323,791	2,061,650
建物及び構築物(純額)	1,986,050	1,887,736
工具、器具及び備品(純額)	106,661	91,269
機械装置及び運搬具(純額)	1,137	813
土地	1,437,968	1,226,772
リース資産(純額)	61,601	50,586
建設仮勘定	24,672	27,760
有形固定資産合計	5,941,884	5,346,589
無形固定資産		
借地権	526,355	526,355
のれん	144,862	113,999
ソフトウェア	34,305	25,279
その他	607	607
無形固定資産合計	706,131	666,242
投資その他の資産		
投資有価証券	33,786	35,447
出資金	9,403	987,913
長期前払費用	32,851	42,255
敷金及び保証金	6,308,484	6,124,399
破産更生債権等	116,070	113,335
繰延税金資産	437,614	435,955
その他	180,134	200,134
貸倒引当金	205,232	202,326
投資その他の資産合計	6,913,112	7,737,113
固定資産合計	13,561,128	13,749,946
資産合計	20,683,106	20,498,611

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金等	953,637	319,967
短期借入金	662,000	1,281,206
1年内返済予定の長期借入金	1,147,418	1,093,567
リース債務	10,460	10,460
未払金	1,734,818	1,391,248
未払費用	87,619	79,707
未払法人税等	84,030	53,321
未払消費税等	22,434	66,117
前受金	190,100	162,310
預り金	76,567	48,534
未成工事受入金	36,782	-
資産除去債務	60,228	15,617
その他	6,955	60,228
流動負債合計	5,073,055	4,582,288
固定負債		
長期借入金	4,319,542	4,047,500
長期未払金	447,041	343,598
預り保証金	481,632	579,273
リース債務	8,717	3,486
資産除去債務	191,086	195,516
固定負債合計	5,448,020	5,169,377
負債合計	10,521,075	9,751,665
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,405,000	4,405,000
資本剰余金	4,797,051	4,797,051
利益剰余金	959,414	1,543,535
自己株式	2,112	2,489
株主資本合計	10,159,352	10,743,097
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,677	3,848
その他の包括利益累計額合計	2,677	3,848
純資産合計	10,162,030	10,746,945
負債純資産合計	20,683,106	20,498,611

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	11,354,307
売上原価	9,293,026
売上総利益	2,061,281
販売費及び一般管理費	¹ 1,265,845
営業利益	795,435
営業外収益	
受取利息	929
受取配当金	752
広告協賛金	36,003
その他	33,902
営業外収益合計	71,588
営業外費用	
支払利息	127,951
その他	11,248
営業外費用合計	139,199
経常利益	727,824
特別利益	
固定資産売却益	24,131
違約金収入	88,538
その他	9
特別利益合計	112,679
特別損失	
固定資産売却損	52,087
固定資産除却損	9,341
減損損失	28,439
その他	1,683
特別損失合計	91,551
税金等調整前四半期純利益	748,952
法人税、住民税及び事業税	² 21,504
法人税等調整額	4,087
法人税等合計	25,592
少数株主損益調整前四半期純利益	723,360
少数株主利益	-
四半期純利益	723,360

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	723,360
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	1,170
その他の包括利益合計	1,170
四半期包括利益	724,530
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	724,530

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	748,952
減価償却費	843,919
減損損失	28,439
のれん償却額	30,862
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,032
受取利息及び受取配当金	1,681
支払利息	127,951
固定資産売却損益(は益)	27,955
固定資産除却損	9,341
売上債権の増減額(は増加)	420,673
たな卸資産の増減額(は増加)	401,387
仕入債務の増減額(は減少)	633,670
違約金収入	88,538
その他	131,318
小計	977,466
違約金の受取による収入	181,495
法人税等の支払額	44,299
その他	3,393
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,118,056
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の増減額(は増加)	527,550
有形固定資産の取得による支出	818,806
有形固定資産の売却による収入	240,049
利息及び配当金の受取額	1,820
出資金の払込による支出	1,400,510
出資金の払戻による収入	422,000
敷金及び保証金の差入による支出	6,030
敷金及び保証金の回収による収入	373,079
その他	42,629
投資活動によるキャッシュ・フロー	703,477
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の増減額(は減少)	619,206
長期借入れによる収入	785,763
長期借入金の返済による支出	1,111,656
利息及び配当金の支払額	297,920
その他	6,857
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,464
現金及び現金同等物に係る換算差額	18
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	403,095
現金及び現金同等物の期首残高	1,797,083
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 2,200,178

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

匿名組合への出資金の会計処理

匿名組合出資金(金融商品取引法第2条第2項で規定する有価証券とみなされるもの)については、匿名組合の純資産及び純損益のうち当社の持分相当額を出資金及び売上高として計上しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形割引高	49,612千円	37,720千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間
(自 平成25年4月1日
至 平成25年9月30日)

従業員給与手当	417,649千円
---------	-----------

2 法人税、住民税及び事業税

当第2四半期連結会計期間の法人税、住民税及び事業税から、神奈川県臨時特例企業税の返還金7,583千円を控除しております。

なお、返還金の還付加算金に相当する額3,182千円については、「営業外収益その他」に含めております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

当第2四半期連結累計期間
(自 平成25年4月1日
至 平成25年9月30日)

現金及び預金勘定	2,957,123千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	756,945
現金及び現金同等物	2,200,178

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

配当金の支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	139,238	1.00	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)3
	アミューズ メント事業	建築事業	不動産事 業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	8,779,795	532,024	2,041,019	11,352,838	1,468	11,354,307	-	11,354,307
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	13,390	-	13,390	-	13,390	13,390	-
計	8,779,795	545,414	2,041,019	11,366,228	1,468	11,367,697	13,390	11,354,307
セグメント利益 及び損失()	920,432	7,926	164,194	1,092,553	188	1,092,365	296,929	795,435

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業であります。

2. セグメント利益及び損失()の調整額 296,929千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益及び損失()は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アミューズメント事業」セグメントにおいて、閉店を決定した店舗の資産グループについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として特別損失に計上しております。

なお、減損損失計上額は、当第2四半期連結累計期間において28,439千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5円20銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	723,360
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	723,360
普通株式の期中平均株式数(千株)	139,237

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月11日

アドアーズ株式会社

取締役会 御中

興亜監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 恭 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柿原 佳孝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアドアーズ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アドアーズ株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。